

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	阿倍野区北部地域包括支援センター
提出日	令和 6 年 6 月 7 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	顔の見える関係づくりから広がる支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症、精神症状のある高齢者の相談が増加、家族にも精神疾患があるケースがあり、高齢者への対応が不適切であるケースがある。 ・コロナ禍で体力が低下し高齢者の孤立化が増加していることが予想されるが、その高齢者の掘り起こしや集いの場へつなげることが難しい。	
対象	地域住民、支援関係機関など	
地域特性	【高松地域】地域を大きな道路が分断していて南北で地域活動への参加率に違いがある。 【常盤地域】人口が多く高齢化率は低いが高齢者人口は多い。 【金塚地域】全域にわたってマンションや商業施設が立ち並んでいるが、マンション住居者の高齢化が進んでいる。 【文の里地域】一軒家が多く相談の上がりにくい地域であったが相談件数が増えている。	
活動目標	・周知活動を継続し、相談しやすい地域包括支援センター（以下「包括」という）を目指す。 ・地域、関係機関との関係づくり、地域課題について理解を深め暮らしやすい地域をつくるための小会議を計画的に開催する。	
活動内容 (具体的取組み)	①精神疾患のある高齢者の対応困難ケースにおいては地域ケア会議を開催、地域、民生委員、区役所、見守り相談室、認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）などの機関と対応について検討することができた。 ②各地域で健康講座を主催。薬剤師、管理栄養士、理学療法士の各視点から高齢者に多い疾患についての講座、体操を行った。 ③地域活動の後方支援を行い情報収集、関係構築を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域ケア会議の開催数が増加し、各機関との連携を深めることができた。 ②地域住民の健康への意識付けを行えた、包括の周知活動も行った。 ③金塚地域で月1回開催しているミニマーケットを地域住民の集いの場として毎月開催することができた。文の里地域で健康のつどいを開催、地域住民が意欲を持って健康づくりに取り組む場として定着している。	
今後の課題	・地域活動が再開している中で、担い手不足の課題がどの地域でもある。 ・認知症、精神疾患等を抱える高齢者、家族の支援困難ケースに対する対応力を向上を目指して、他機関との連携、スキルアップが必要。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月31日（水）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	特色が異なる4つの担当地域の個別的な課題と共通する課題の両方を見出し対応しようとしており「地域性」に、顔の見える関係づくりにつなげている点は「継続性」に、見守り相談室や強化型地域包括支援センターなどの他機関と連携して対応しようとしていることから「浸透性」「拡張性」に該当する。 課題にもとづいた取組みとして金塚ミニマーケットや健康講座などを通しての見える関係づくりをむずびつけた取組みは「独自性」に該当する。認知症や精神疾患の相談が増加しているという課題も抽出しているため、今後はこの課題への取組みも深めることを期待する。	